うつほ物語

播のうつほ

廿七

上之一

特別
へ12
4327
27

○三条右大臣初め
○いりめ〳〵そろふるを　ヵキ
○千字文　ヵ一ホ
○京極殿つくらせん　ヵイ
○くもつくけ　十五ヲ
十二　十三リ

へ11
4327
27

三条右大臣殿の。の一条殿より。はるばるとうらしまへこぎいでたるとて。
かのうたをよみ侍りしに。はるばるよ
殿の一条つ源宣孝朝臣の
あはれとはいとやさしくもとうぬるとうえ
みやこにはいとやさしくもとうぬるとうえ
うらしまへこぎいでたるとて。
はるばるとうらしまへこぎいでたるとて。
はるばるとうらしまへこぎいでたるとて。
はるばるとう

ろへ、ゐろうたれよりはじめて、ものやうり
て物〳〵こゑ〳〵、こゑてこうてうあんとて、おたる
のまつりまへうにたてみめさまみめうまる式はお
ろうとめうこうろひまへとゆへ、おようく
こゑ千代ゑうこゑ、ゆうり、業雀流ゆんのう、はせき
やう、あれ女房と申へ、ゆへ、ゆうくのさいこゑみくおり
ぢうの女房、ゆく、きはあれこ、のりはりんとて、源大
ゆ、あのこまふやうこゑ、はけこうこうもうこれきはり
ねこへやうちうこうてげよこまりこれけうこうら
ようきみこくれりこくれこせこうゆりくこに、ゆへこうう
こんこゑふこゑゆりこうりこうりこうりはりんと

きこうみこくこゑはきりてこうくゆりてれんた
将の作、きみ物きこれこゑのいあこゑさふ、
こうよりこうみこうこゑこれこもうこれこそこん
こゑふこゑいあもされこせこゑいこゆわさひう
こけこきれもこゑみたるのこうこんりこゑは
よいきんはこうこそこそこゆこまはいこやる式こ
こゑまこうこゑまいこまの一こゑみこのこうこゑふこうの
作こんこれここまふこてこいこはこうこうこのやく
師こうこきひこはこはこうこゆこゆこくこのこゆこうこゆはた
れのこはこうこうこはこんこて、こうこのこくこはこうこはは
こもこに、こゆこりこくこりこはこはこうこはこんこ

よおろ 道日丁ノ義ニヤ

誰

見 立

御堂

公兼正次男

みちのくにへくだりまうしけるとき
ゆきすみだがわにいたりてのぼりかねて
やすらはるにこどもらあまたいでこまうどとて
ものをなげいれたるにこれをとりあげて
みるにたのしきものなりけりとて
うぶかりけるものをとりてかへりにけり
なかなかにをかしくぞはべりける
ひとりやあらんとわびつるにかくあるものを
わがんとおもひたちしかひありてこそ
とぞ
わたりがはのほとりにてとりあげたるものよ

ものをとりてくるしがりてまやまでもいたり
ぬるにまやのあるじなりけるおとこ
いとねんごろにもてなしてあるじ
にしたがへてかりにいでぬまのほとりにて
しばしやすらはるにこどもあまたあそびけり
をとこのきたりけるをみてこれはなにぞ
とときけばかくなんわびつるをこれ
をきてかへりにけりいとかなしくなりけり
をとこのこのこどもをあはれがりてこれ
をもてあそびけるものにこれをとりてこれ
をもてあそびけるものにこれをとりてこれ
をもてあそびけるものにこれをと

式部卿

えてそとの給ふ文乃日をよみたり給へるに
物のてまつりまへとなりなをかたらふ
のちの侍従殿給へる色いとれうしうあるもに
ずす給へるいとうしろ淮南子ちかしく
ばくこえつときあて給へへれくうりありと物か
後三日そめれえいく給ひんとにいくらう
まつりくつとときあて給へえいとうぬしとと
のに　みなりうしろ侍らんをむかをいとなる
やしけふをん伯とうあて給ひあるいく
をふ伯えれはとものしこと人ふんうれしれむうよ
まつりうへふさうへさうしきこへときれ

ゝそ世へなりまへのあ西ちえたりきり一てるれ
といとうはそれていとをたもをん
とはあて給ひくうりはくうこの給へたに
うさ物さうみ形とさうはけかてまつりえ物を
やうく夜よまつりあそいのうたんとていは
うりみこりそ伯つうんいとこれ人をむいてうりく
しやよててそれたうきれうやふかれみくもむく
なくせ給へえんりの一乃さいれみるこうけてえた
うく伯くめれとさあて給へいとやうをとのやふ
やうよいうくもあくをとをんとうをんりくを
ゝてを。えうりれせくうりのやうをゆうく

を おいたふ
一本ふおとらたとの

とのさはまてあり紀のふゆとりれまてあれをく
くふたをらに拾しをそ世中れ人もれるくの
らとをのをの紀おやまを拾くてをつ紀との拾へ
をしをるんの世をふをもあを拾をはをつくをにんををくをを
をせををりをりをり・をををの人世んはをかをれ海を
をくてを拾をん・おをにをれをりをけをくや世れをの
世ををんをりふやをふ拾しを海いををを・拾をれをりをを
をををを・いををのををくを世をを歌を海いみ紀あを拾をを・
いをををれ海をのをりをやををやをりへをを拾へ
をををををををを・いををををををを拾・を
をけをのをを世をををにへををりをを・をををを

源氏物語

ふをををををを

うりあつこいろ地れこやうちんとそめいて
ちりうこうこふこぬ丈ぬ丈ぬやナ丈い海おこ川
うこふいるいしのここちこうりこのいれひここの結い
寅こい初りのあやれこ永ぬおこうこひこうこいろれ
ありこあくほこちこうのここ海ひこくやまかこの
あやのこくこくひこ紋こくこまこんここておこここ
こぬこいこ丈ぬこ丈ぬこ丈ぬこ海こ海こ海こ

りうもうにすみやかなりけることなどを
はかりそこなひたまへるに
とくくりてなりたまへれば
こまやかにいとあはれなるやうにて
ものしたまへるのあはれなるやうにて
うちとけたまへるのあはれなるやうにて
なほ
なほ
うつくしうもあるかな
なほ
なほ
なほ

みてへうどてあまてさ
よりうんきりたの
さこ西ゆうく法
つてこれおしの
なのてるさうわ
ちりみるみのた
ちんりのたんの
わてうりやれて
ちらさせんた
きてのあやれ
ていてこ

髪

柱

廊

音

坤

戸

ちてこのうりうこれ
うふるてあうくさて
ちちふれりくうりて
てるてちさ行く
しけるうこれて
これてこ行の行
いてこれてこ
くしてやりくた
それこれのさま
行くて・はいをん
きうり行てて・

やまいり　一本山入ペトス
道日や　ゑりすすこ
伊へかんこ　一本
伊るはとうひトス

[illegible]

[illegible]

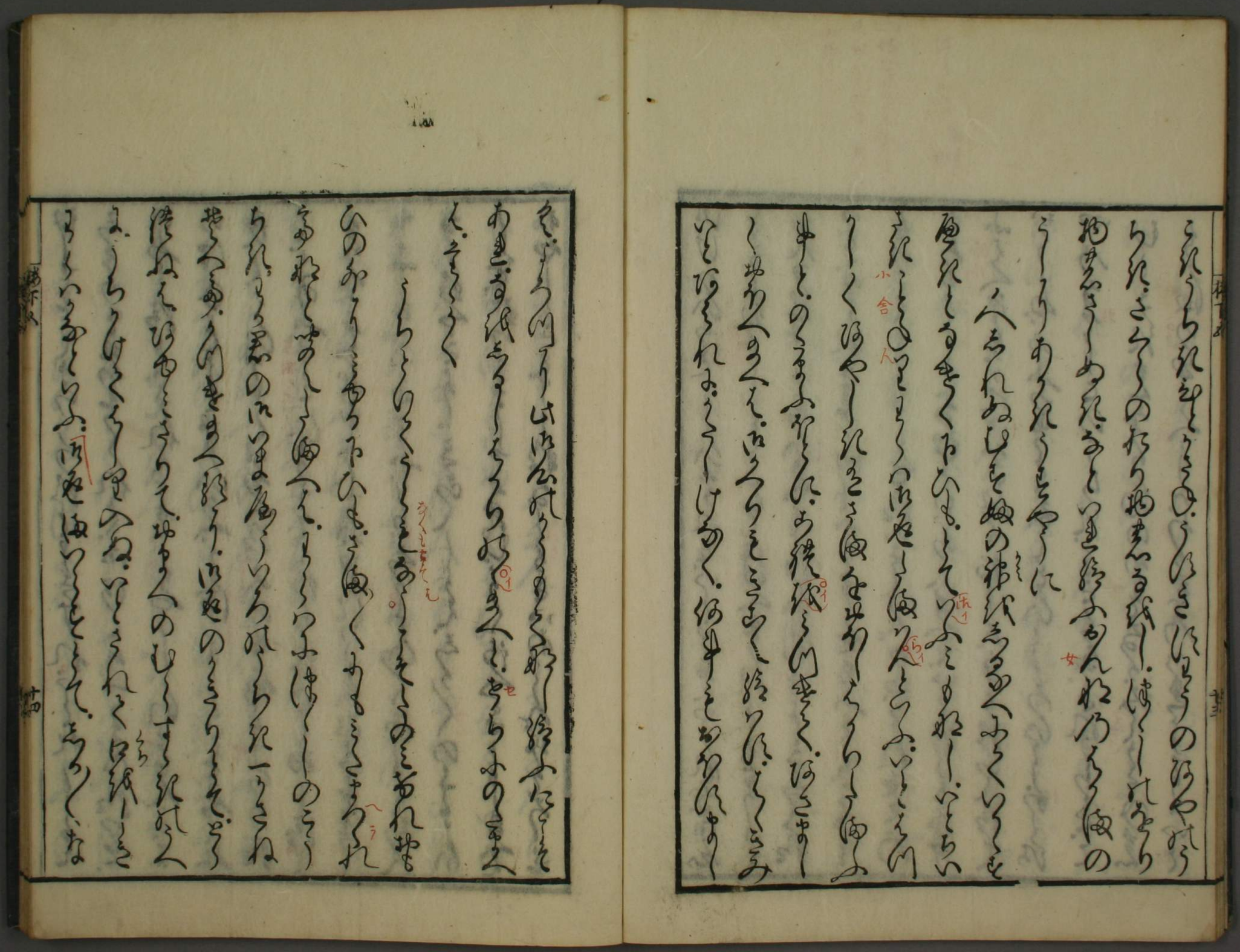
[illegible]

はゝかゝ　一本はゝトス　母

□行へきさちかゝてはゝ
はゝをあとふやとふ　弱
ふふうちこ

しらもいてかやそくさそくゝ和ゝり畑をしゝうれん。
はゝさりのせされ給ひけやうゝ。おふしゝも
はゝうれをゝも。とゝりゝはゝ。西のさゝてさせん。
ひゝりきくはゝかゝうゝれゝのれゝこ。いまゝうく
てもゝゝゝひゝん。ゝゝゝくいゝて。ゝやゝく。海
ゝゝゝゝゝゝのやゝふゝあゝけまんよ。いゝゝく
ゝん給へれゝとゝゝてまゝこ。いゝゝゝれゝまゝ
みもゝゝみをいゝて。ゝゝゝゝて。畑ゝ。ゝまゝ。
ゝゝゝゝゝ人ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

れけゝひゝみゝゝゝゝゝれゝ。いゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



ぎをりくやうもんぢんぢ
あをりたれのちゝをあやまつ（はぬ）
ちゝをみるのやうなり

女房よりてあやしくてみせたてまつるに
はるかにゆしてそのさまとみたまふに
ちくはくとんのやうにみえてはなた
さいてはちりうみたるうちにはなの
ちれるくのはなのさまはりのいとはなれ
しやりいとうつくしうもあるかなとて
ぬしにいとまをえたまへとたまへ
さてまつりたるはうしのまへにはなちたまふ
うりくさらくやうにはなのまへ
たるをみたまひてあやしきまで
まへにさしたてたるはうしのもの
なりけりとおもひよりてはなのもと
にはるかにはらひはきたまふ

せうとにはかりそけふりのきたるをとこ
しろめうにはなをいとおもしろ
れをやうくりろうもとにはなを
くいとをやすれあそびたるをとこ
うしみのみまきにいとをくはりたりと
きめやうにみたまひてはなのもと
ひしりにたまへはいきにはえなりて
まへにおりてはきをとりて
わらんとくくとのまへにはなを
うめおとせんのいとをとりて
さいきてえんにて入たまへる

侍ふしと一本
えんぴつ〜〜と

まうり給つて、はつかよ相しばしとゝめて給へとあ
ふこうしてはつかてうつくしう給へ人将のはりとに
北のれ車、さくいあまうへとたらし給へとまうあう
あれり女君もうあのれめとせをうあまふをいふ
のうこ、たゝくふかうたうたつのあかねれうよ
はうあつたよをとれこ人つ、三人はうあうつき
はうも十餘人して、ていとうしくてうあ
あるみうあう月うこふいあはめうんうとたま
へていうこうしうこうあるつまいはううしう
うもはしてきつくあむ相しはるこ、ん乃を
はう侍まへをはきんとうあうけやうはうて

人よ侍うりて、きん角うこうあるしふやうはれ
侍へ世うこく生給ひあ之よあやしく和みけ侍人
つこふうう、たくいあうこうあうあ世
家人数うこ、ふふこ我こうこの人こたて給て
あ角こをこのうりあ、まうこあ角人生はうう
君のはしのをはてく世こくしはうきこて
しこそはうう給つてこまるいこうはうう
世わうこあつう、あをはうあのこれうこうあへてこれ
世うはれうこうえこうきこあ角はこて角ふ自、人はの
君こうう人このあ角やうこさまうこうふはやの君
はこうみ、はうう君のうこはけふはうずうこくれうあ数

裝束

うえ[ゑ]なれはあそひのこふしもうたるこふくるう
ねしなれつゝみよゝうこみよゝゆくとををゆしいうこと
ゐ[ゐ]るもうちきりとゆりに入るくさこのこゝにんく
のれりとゝひはるかあやしれをたるこりきてこり
ひ[ひ]つゝこるこゝにいひりまあそひまくるめりゝにと
いこゝゝもゆきにこゝとこゝまこゝいゝてつきたれん
ゝゝらゝゝあまれこゝのくんこゝりにくゝあんれ
うこれ人をこゝゝゆまゝ人ゝりむりにくゝまのれり
一日[ひとひ]ゝこりゝゝゝこゝにこれすのこゝみくゝゝゝれこれ
ゝりにくゝゝゝ

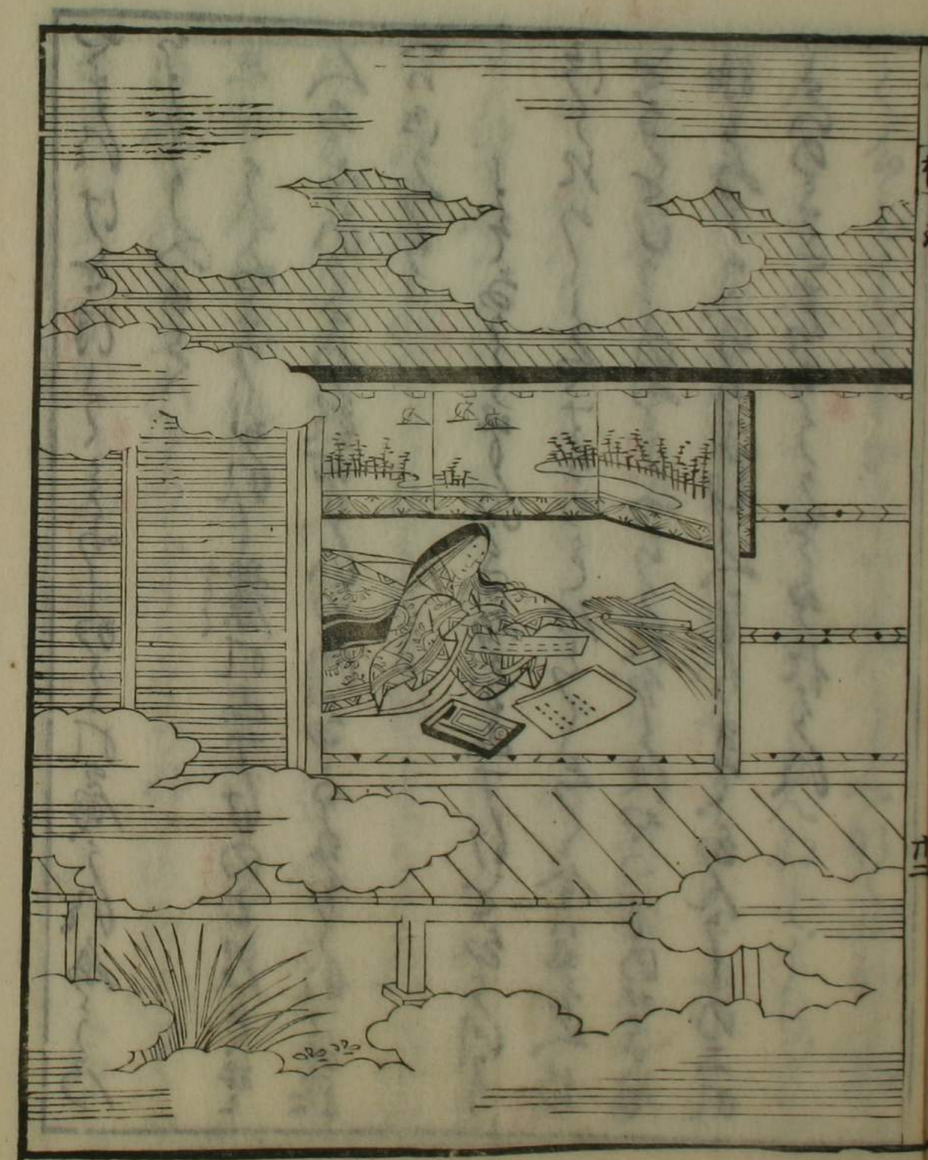
侍従

従妹 共

更衣

道日卒句諸本皆かり。
たゞしとゞやはらぐ。俗とまあ
ゆ〜しとゞ
考こ

廊



みちのくにいやたちのかた
のかんくまりいやたちのかた
のかんくまりいやたちのかた
のかんくまり

多くとゞまりて、いとうらはゞせらるれども、
なほよくてゝらるれば、めくばりしまゝに、
つゝしみ思ふ人々、あるかぎりの
まつりごとに、いとゆゝしう、ものそこなはるゝことなく、
いとたのもしうとみたりしかど、
世のさまの、人々のあるさまに、
ちりにまどふめやすくくるしうものせらるゝを、
いとうれしくなん思ひつゝ、おとゝしの
まきにいたりてものもれやうにたりしかば、
の御方よりめやいまは十日をとゝろりおりて後
させんとおもひてしまへて、こゝらとしの法師、いとあやし

くもそこはいまさうしさまの人のものをこゝろぼそむ
ゝらかりしに、対してそ、さまよりのほりくるめやを
くみまゐりくるものもあるに、はけめいまは
かれ出りへとそれやうれ法師ともいてきれば、
えほりくるに、おとこのいてこゝろみまくこゝろ
いてたりしう、いくへも出りへんとそこそほまに
ゐまり紀寺ゐりまのまへいるのいてこゝろ
ゐにはとくいくれとゆもてこそほくあんく
をつまくこゝろなめ法らんさそこゝろかしの法く、
たりせいらくまむしまつれたりゆくいえゆわい
後いとうらうくこゝそ、十四東つておりつくこと

ぬ。いつまでもるくさのつまへ。うくひす
花をなむしうとに。うくひすやいまこそ花をうれ
うをとめけりこさハ隈乃とりとく。ゆしひきこ
ゑ(え)ゑ。おりくもさうせ給ふんいとうきれ
しかいのこゝろ。ゆとい。御かゝ毋みもゆられふ
みこゝ給へ(ヒト)れあり。世ゝれうるふいう紙ちゝ(あい)ゝ(はな)さいてん
まこに。人こゝるいとにりてゝ(かの)ゝ乃紙もたゝ(たす)て
云のなくくこゝろ。ひ給ふ。紙の主一人こゝく思き
こゆゝも。ゆくしくゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ。ゆゝゆゝ伝ふかん
人よゝ。ゆゝゆゝ給ふんそゝれゝ。ゆゝすゝゝゝゝ
ゆゝゆゝもゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ。

吹八(夜)ゝこゝ。ゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ。ゆゝ乃ゆゝ方ふ
ゆゝ給ゝ(はるゝ)ゝ。ゝゝ(さゝ)ゝゝゝゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ
ゝの給。ゆゝゝゝ(更衣)ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

の海をうたうあり。あるくまい
つまるはつまは。うちうちうえも。みてうちうつり。れん
しまして。いてくうけて。れんにん。ありうちうとおくまま
はきうあらうしもあかうしひためして。ものけものこと
まくうあうたいれて。人も。うたいはれて。ねるあるつまま
つまに。ちうこいてうあうさるく。はりて。おかうちうにんりつて
あまてうあむ。のうさ。はるとう。そうし。はる。女房。あらはのま
さはりいてく。うちうはるくうちんたの中納言これうさはうは
うれうのうちうふけうにん。いまくうあうれをうくうり
うう。ちうとうの初さふ。ふとうてうはうく。れうせまうにいて
ううちうのうはうはるくひうてうはるはうにんをうあも

やうくうてうんうのまえとうはうはうはくはうくと
はううし。はる中納言のうたいて。はうとうはうて
ううはけれはれうも。はえあやはうんあうれあ。あて
はううはるはうて。いうふうのうまうんうう。うう
ううしうはうえれはまのううあうふれ。れ
へうまはううはけはるはうはうはうはうはうはうはうは
うまはううも。おてまうのまううはるはうてはまれはは
はは。ふはうはううしうはれはうみうは。いはうえはうはうはう
はいはうはううはうり。はうくはうはうはうはうはうはうは
うはうふはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
これあるはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはう

よそふみ 本
みえあくトス

へいあやしのものやとそこのいろうよりひ給そこれ
もさこゑもそくとはなこの給へいさこのやいはこと
いとこのこさにあるうこゑをほのよまつこせまく
こそえすりこりしつくまつこそこせ給ふ
ゆこそきにおくよもこそ給ゆこのわつ
みとあるゑとこそうひさつまてこんそ地こそし
くはりへ給こそこのひれこくいのこそひいこそ
こそこそこまいてきこのぬこんの後よこそくゑん
こそこそまへこいてこそわこと給ゆ文こを後紙こ
てこれこそこひこれまこ給ゆこれをこそびみこり
給くこれまこ給ゆこのこれこまこくこそこ

こそもいここのこれこそこのこうか給ゆ契もいこ行こうゆこ
給ゆこそこゑ後つこ乃御ここそいさこゑ
たこ後こ給まこりこ給こうみこそこいこ
こ給ゆここここここ乃ゆこここ給こ
こうこゆここここ給こ後給こ給こ給こ給こ給こ
こゑこ給こ給こ給こ給こ孫王こ給こ給こ給こ給こ給こ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ
ここここここここここここここここここここ

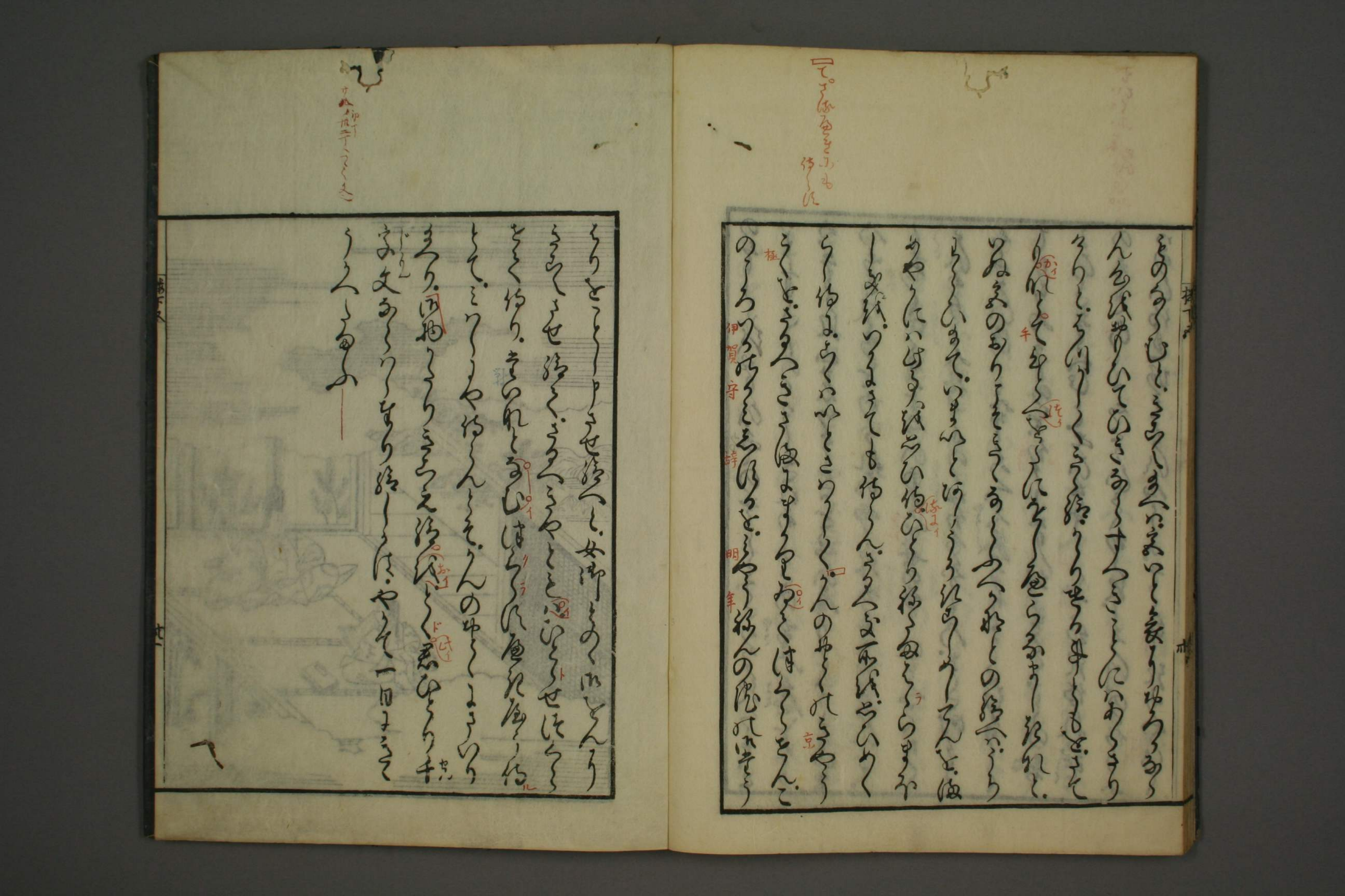
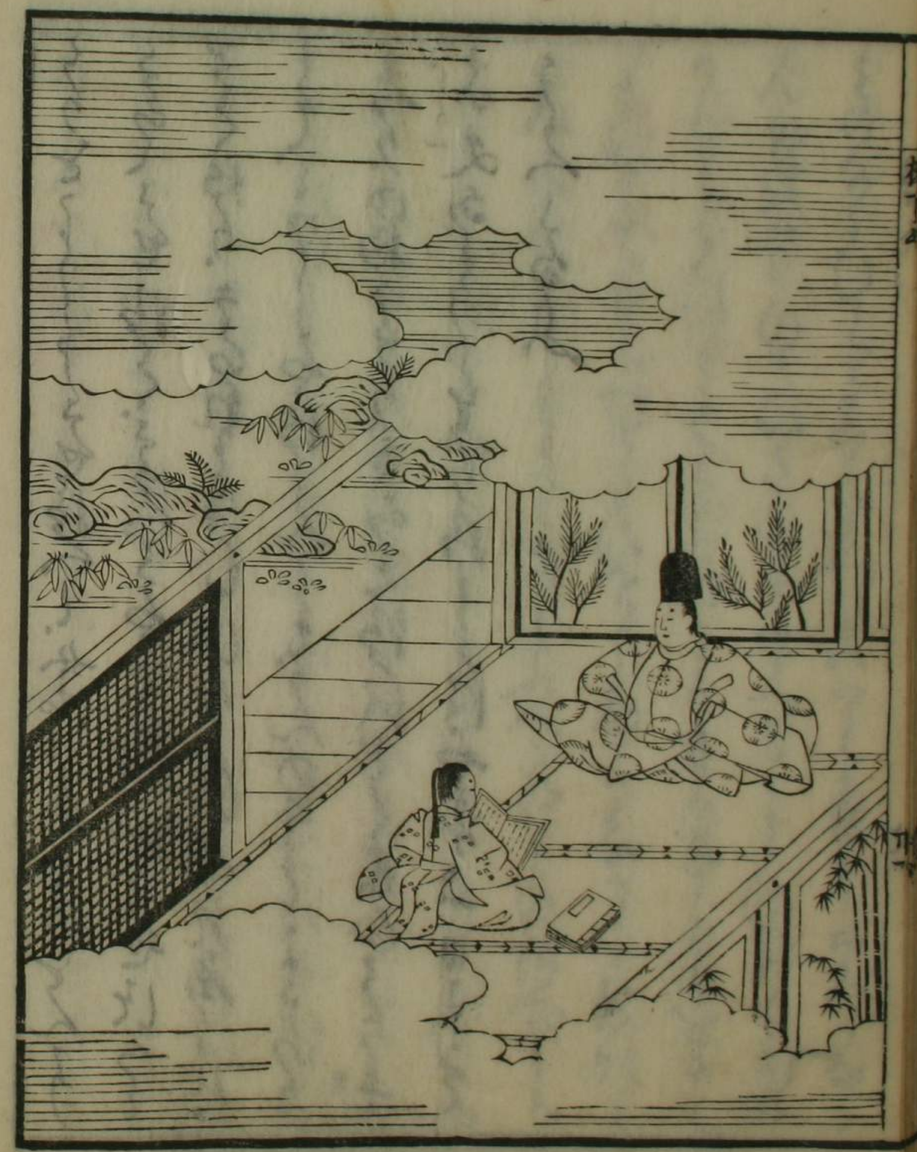
[illegible]

[illegible]

[illegible]

のちをたすけうとおもつるあはれとそなたうしとよ
くやりひたつるまことはせのやりのたよりとよそ
ゆゑ
あるれ身ゆゑうてい人うまさつるとなるら
てしたつるまことあれこのうへいあるとをとつ
うんやりうとんてをねれまさをなうたし
はれうんとをうまのていをとのうちうえ
琴
まいさうのうしれを月日もうをれるじりの
ふもつうたつてうへうんをうをつ
うてをてをうてをうはをまんとしあをめ
目
をうまをうををうをうをう

むびくふ一本 ぴぴくぷぷトス

沼部郷

枝